

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190202341		
法人名	株式会社 スリーコムズ		
事業所名	グループホーム せせらぎの丘(すみれユニット)		
所在地	札幌市東区本町2条7丁目2番30号		
自己評価作成日	令和7年10月30日	評価結果市町村受理日	令和7年12月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail.022.kani=true&JigvosyoCd=0190202341-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和7年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がその人らしく生活していける、常に笑いがある事を心掛けて支援を行っています。あまり良い表現ではありませんが、利用者様と職員が仲良しなユニットです。散歩で近隣へ出掛けたり、餃子やお好み焼きパーティー等のレクリエーションにも力を入れています。今後は外出レクの機会も増加していける体制を整えた為、また新たな楽しみが増えてきています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム せせらぎの丘」は、介護施設を運営する同法人が札幌市東区に3か所目として開設した事業所である。近隣には小中学校や地区センター、飲食店やコンビニエンスストアがあり、バス停からも徒歩2分程という生活の利便性が高い場所に立地している。建物は管理者と職員のアイデアを反映させた造りで、利用者の見守りがしやすい明るく開放感のある間取りになっている。居間には、利用者と一緒に制作した季節の装飾も施されている。管理者は、職員の意見や提案をケアや業務改善に反映させて働きやすい職場環境を整備しており、開設当初から職員の離職率が少ない事業所である。研修も計画的に実施し、職員の資質向上にも力を注いでいる。ケアマネジメントの面では、毎月モニタリングを行い、全職員で詳細に検討しながら介護計画を作成している。管理者を中心に、全職員で利用者と家族の思いや意向をくみ取りながら一人ひとりの人格を尊重した丁寧なケアを行っている。食事面では、季節に応じた献立の他、利用者の好みに合わせた寿司のテイクアウトや利用者と一緒に作る餃子パーティー、職員手づくりの揚げせんべいや揚げいもなど、楽しい食事やおやつが提供されている。居間から小学校のグラウンドで活動する子供たちを見ながら、自分のペースでゆっくり穏やかに過ごせるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内の見え易い位置に掲示をしているが、職員間で理念の共有はあまり行えていない様に感じる。	法人理念の中に「地域に信頼され、愛され、支え合う」という、地域密着型サービスを意識した文言がある。ユニット内に掲示してミーティングで確認しているが、更に全職員で共有できるように定期的に再確認していきたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等にて町内会との関わりがあり、催事のお誘いを受ける関係性を築けているが参加はまだ出来ていない状況である。	感染症の発症などもあり地域行事への参加はできていないが、散歩の機会に近隣住民と挨拶を交わしている。ハンドエステのボランティアの方から、利用者が施術を受けたこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の議題にて認知症に関する事例を扱い、理解を深めている。町内会が開催している認知症に関する体験会にも招待して下さっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、地域包括職員が参加している。(民生委員は諸事情にて参加出来ない)家族代表者はおらず、前回の指摘にあった、意見を求める工夫も行ったが特段家族からの意見等はなかった。	家族の参加は得られていないが、感染症や認知症、服薬トラブルなど、毎回テーマにそった資料を基に簡単な勉強会を開催している。次回の開催予定日を入れた議事録と資料を全家族に送付している。テーマにそって、参加者と意見交換している。	家族の関心があるようなテーマも工夫して設定し、参加できない家族の質問や意見も事前に聞き取りながら会議に反映させるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な際には連絡を取れる体制を整えているが、ネットでの報告や回答が推進されている為、希薄な状態と感じている。	感染症流行後は市役所や区役所に出向くことは少なくなり、書類などは郵送したり、パソコンでやり取りしている。保護課の担当者と電話で情報交換したり、相談することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット内の勉強会にて知識の共有を行っている。集合玄関は施設の構造上、自動で鍵が掛かってしまうが、ユニット玄関は開放されている。	身体拘束の指針を整備して年2回勉強会を行い、具体的な禁止行為11項目も確認している。法人合同で3か月ごとに委員会を開催している。本部保管の委員会議事録を、今後は事業所にも整備する予定である。玄関の鍵は常に施錠しているが、利用者の様子を見ながら柔軟に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット内の勉強会にて、身体拘束とセットで行う事が多い。回数としては少ない印象を受ける。		

グループホーム せせらぎの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニットの勉強会にて行っているが、私自身はまだまだ足りないと感じている。権利擁護の基礎の基礎を行った印象である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には内容を詳細に説明しており、過去の具体例や実例等を踏まえて行っている。後で『聞いていない』という状況が生まれにくい様にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、ご家族様へアンケートを実施している。その他には面会時や連絡した際に意見を伺っている。	面会時や電話で利用者の様子を伝えて家族の意見や要望を聞き取り、個別の「支援経過記録」に記入している。毎月、写真とコメントを載せた個別の「せせらぎ通信」を家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議に総務課長も参加しており、その場で誰もが意見を言える環境を整備している。	普段から職員の意見や提案を聞き取り、業務の流れを変更したり勤務時間の調整などを行っている。備品整備などに関する事も職員の提案が反映されている。管理者は普段から職員と個別に話をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長と総務課長にて、会社独自の評価方法を活用しているとの事。詳細は不明である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット内で職員にアンケートを取り、その内容にて今困っている事等を抽出している。日々から職員間のコミュニケーションが多い為、適宜行っている印象を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は今現在も行われていない。他施設の見学や交流の場への参加を実践出来たらなと感じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に関係各所へ情報収集を行い、ご本人様とも面談をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階から、ご家族様が感じている不安や疑問点を解消出来る様に努めている。ここ最近では施設の種類がわからない旨を話される方が多い為、グループホームで出来る事、出来ない事の説明を特に詳しく説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	紙面の情報とは違う事も多々ある為、新しい入居者様様が来られた際は職員間で情報共有シートを活用し、各項目(食事や入浴等)での情報共有を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	近過ぎず、遠過ぎずのバランスを大切にしている。職員へは1人1人がその方にとっての何かの役割になれたらと話している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居される前の見学時から、ご家族様へは【家族とホームで支える】に変わる事、決して任せっきりにしない事の重要性を説明している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年から居室内での面会を再開し、ご家族様はより普段の様子を感じながら交流する事が出来る様を感じる。	友人から電話が来たり手紙が届く利用者がいる。親戚の方が面会に来る利用者もいる。職員と外出した時に以前住んでいた近くを通り、景色を楽しむこともある。家族と外食や買い物、法事に出かけた利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理な関係性を構築しようとはせず、相性を見極めながら支援を行っている。必要に応じて介入をする様にしている。		

グループホーム せせらぎの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実例はないが、行える体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の些細なコミュニケーションや居室担当者のモニタリング等にて意向や思いの把握に努めている。ユニット会議時に話し合う事もある。	会話や仕草、いつもと違う表情などから思いや意向を把握している。アセスメントシートを作成し、趣味や嗜好などの情報の蓄積に現在取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前に関係各所へ情報収集を行っているが、どうしても不明な際にはご本人様とのコミュニケーションの中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしは些細な事でも把握をし、生活記録に記入する様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者が毎月のモニタリングを行い、それを基に計画作成担当者がケアプラン原案を作成している。サービス担当者会議にてその原案を話し合い、完成したものをご家族様へ説明している。	毎月モニタリングを行い、担当職員の評価を基に計画作成担当者を中心に3か月ごとに介護計画を作成している。更に日々の記録をモニタリングに反映しやすいように、介護計画にそった記録とすぐ分かるような記入方法の検討も考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録の内容を詳細に記入する様にしている。そこからモニタリングやケアプランに繋げている。今後、デジタル化に移行予定の為、注意する部分もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、支援を行える体制を整えている。しかし、全て出来るという事ではない為、ホームとして出来る事と出来ない事を細かく説明している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不足している部分ではあるが、地区センターの展示品を散歩がてら見に行ったり等を行っている。又、地区センターにて運営推進会議を開催している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームと連携している主治医がどこまで対応が可能かを初期の契約前から説明をしている。又、サービス開始時には主治医側のクリニックからご家族様へ説明が行われる。	協力医療機関の往診を全員が月2回受けている。歯科の往診も随時受けることができる。主治医の判断で専門医を家族と受診する時は、医師の手紙を渡すこともある。外部受診は個別の「支援経過記録」に記入している。	

グループホーム せせらぎの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来訪して下さっている。メインは主治医側のクリニックとなる為、体調の経過や管理を相談する事が多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際はその方の細かな情報を全てお渡しし、早期退院に向けた体制を整えている。退院の実例は現状まだない。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的にはご家族様、主治医、ホームの3者にて話し合いの場を設ける様にしている。ご家族様の都合にて、それらが困難な場合は主治医とご家族様で電話で対応等、柔軟な体制が行えている。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」にそって説明し、看取りも可能であることを伝えている。今後重度化の指針に「看取り」の文字も入れ、利用開始時に家族の意向も確認していく予定である。開設2年目であるが看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニットでの勉強会で簡易的には行ったが、まだまだ足りない印象を受ける。今後は講師を招いての実践的な事を行いたいと考えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は防災点検業者職員の立会いの下行っている。前回指摘された地域住民の協力体制は未だ取れていない状況である。	6月に消防設備会社の協力を得て、日中の火災と地震を別々に想定して避難訓練を行っている。12月に夜間想定火災と水害の避難訓練を予定している。救命講習とケア別対応についての話し合いを予定している。	地域住民の参加を得た避難訓練を実施し、地域との協力体制についても話し合うよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライバシーを尊重した上で、近過ぎず、遠過ぎずの良い関係性を築ける様にしている。	言葉遣いや接遇に関する勉強会を行っている。申し送りの際は部屋番号を使用し、利用者から離れた所で行いプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が答えやすい声かけを意識している。勿論、個々に合わせた対応も実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	【ゆったりと過ごす】という事を意識しており、丁度良いバランスでのレクリエーションや活動を提供出来る様に心掛けている。【暇】もまた一つの生活リズムと捉えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選ぶ事が出来る方が多い為、今現在は任せている事が多い。その日の気温や体調に合わせて職員が一部手伝う事もある。		

グループホーム せせらぎの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段のメニューとは別に食事のレクリエーションを行っている。今年は餃子やお好み焼きパーティーを行った。	食材業者作成の献立を使用し、利用者の希望で調理法を変更することもある。誕生日にはケーキや寿司など本人の好みの物を提供している。揚げいもなどのおやつ作りも楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては連携している栄養士に一任をしている。主治医による採血結果にて、食事量の調整等も行っている。水分に関しては1日1000ccを目標に支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時に口腔ケアを行い、個々の必要に応じてスポンジブラシや舌ブラシを活用している。必要な方には訪問歯科医を受診して頂き、口腔内の衛生管理に留意している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	初期段階から排泄のリズムや量を把握していき、トイレでの排泄や失敗が少ないケアを可能な限り、実践している。	排泄チェック表と生活記録に排泄状況を記録している。仕草や時間帯を見ながら個々に合った声かけや誘導を行い、状況に応じた排泄用品を使い分けることで排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まずは【便秘をしない】という事を最優先にしており、普通便の形状維持での薬調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午前中と午後に行っている。入浴嫌いの入居者様が多い為、楽しむという目的よりも如何に入って頂くかが優先となっている。	毎日入浴が可能で、一人当たり週2回の入浴を行っている。以前からの習慣でシャワー浴の方もいる。一人ひとりお湯を交換し、希望の時間帯での入浴など、利用者が入浴を楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯に関しては傾眠や年齢等を加味しながら、適宜声かけにて臥床して頂いている。夜間帯に関しては睡眠のリズムを把握し、入床の準備段階から工夫を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅管理指導にて、薬剤師が薬の管理を行っている。薬剤師が長年の付き合いになる方の為、相談しやすい環境が整っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きやタオル掛け等の家事仕事が入居者様に人気である。出来ないと不機嫌になってしまうので、説明をしながらお願いをしている。		

グループホーム せせらぎの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に散歩を行う様に心掛けている。ご家族様との外出に関しても今年から解禁をした為、今後の機会が増えていく事を期待している。	事業所周辺の花を見ながら日々の散歩を行っている。ドライブで野幌森林公園へ紅葉見学に行ったり、菊水方面へ桜を見に行くなどの外出を行っている。事業所駐車場で花火を実施するなど、外気に触れる機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設として個人での金銭所持を禁止している。購入の希望が聞かれた際は職員が代わりに購入をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行える体制を整えており、何度が希望がある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中帯は日当たりが良く、窓も大きい為に季節の移り変わりを感じやすい造りになっている。場所に関しても見渡しやすい造りになっているので場所がわからない等の混乱も少ない様に感じる。	管理者と職員の声を反映させた間取りで、オープンキッチンを中心にした造りになっている。居間の窓は小学校のグラウンドに面しており、明るく開放的な空間となっている。職員と手作りした四季の飾り付けが壁面に施されており、家庭的な温もりも感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを設置している。窓側に座席を向けている為、個人の空間を感じて頂ける様に工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に関しては家具が元から設置されている為、自由度は中々出ずらい状態である。その為、面会時に撮ったご家族様との記念写真やレクリエーションで行った塗り絵等を貼っている。	居室には、洗面台とベッド、クローゼットが備え付けられている。仏壇や椅子などの家具類、ラジオなど馴染みの物を持ち込んでいる方もいる。塗り絵など趣味に関する物や抱き枕などを持ち込んで居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部自体が解り易い構造となっている為、自立された生活を根本から支援出来ているのではないかと感じる。トイレまでの距離が丁度良い歩行運動になっている様に感じる。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190202341		
法人名	株式会社 スリーコムズ		
事業所名	グループホーム せせらぎの丘(クローバーユニット)		
所在地	札幌市東区本町2条7丁目2番30号		
自己評価作成日	令和7年10月3日	評価結果市町村受理日	令和7年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食べることに最大限の楽しみをもっていたいただいています。入居者様の好きなメニューを聞いて、献立にないものでも提供しています。特におやつは、既成のお菓子でなく、手づくりでのホットケーキやどら焼きを作って食べていただいています。イベント(夏祭り・敬老会・クリスマス会)ではお寿司やパフェと普段食べられない物を提供して喜ばれています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouSyCd=0190202341-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年11月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(クローバーユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ理念や会社理念については、ミーティング時に確認して、ユニット入口の見えるところ貼りだしていつでも確認できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染やインフルエンザ感染予防のため、感染には注意が必要な観点から交流はあまりしていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ、これからの課題にしている。今は職員不足もあり、毎日の業務を頑張っています。これから認知症に対する教育も必要です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、勉強会も行っており、それに付随した地域の意見や町内の取り組みを話し合い、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な時に電話連絡や郵送に対応している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、毎月のミーティングにて勉強会を行い。また、入居者個々の状況を職員で共有して接遇・虐待も含めて身体拘束をしないケアを行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても、身体拘束同様に勉強会を行い、虐待につながる状況やストレスについて職員同士で話し合い注意喚起をしている。		

グループホーム せせらぎの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(クローバーユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、各々で介護を学んできたなかで理解しているものと思われる。接遇を含めて普段から利用者様に対応できるように心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約事項については、十分な説明や理解・納得を図っています。ご家族様からの疑問や不安については都度説明して理解を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、ご家族様と話して意見や要望を聞き、会社に伺ったり、職員に伝えたりと反映できるように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が直接言いにくい事は、管理者から会社に伝え返答も職員に報告している。また、直接職員から会社上層部に意見を上げています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が狭いフロアのなかで職員の勤務状況の把握はできやすく、個々の職員に何が適しているかや何に興味があるのかを見極めて、職場環境を整えるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員同士が、経験や培ってきた各自の介護観や介護技術を教え合うことで、思っていた介護と違う角度で見られることで介護レベルを向上している。また、入居者担当を持たせることで介護に対して考える力を勉強しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はしていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(クローバーユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に担当ケアマネや病院の相談員・ご家族様から十分な情報を入手して支援について検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族様がホームに入居させたい理由等を聞き理解し、面談も含めて住んでいる環境等を観察して、どういう対応をしていくか話し合い信頼を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報に頼るだけでなく、本人様やご家族様と面談を行い、初期対応を決めていきますが、入所してみないとわからないことが多く、最低限必要な支援をして状況を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とのコミュニケーションを多く持ち、信頼していただき、入居者様は自分の家と思ってもらえるように支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族ではないが、家族のように接するように本人様の生い立ちやご家族様の関係性を理解するように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	写真があれば、思い出せるようにしている。また、外出や外泊も自由で希望があれば支援しています。面会でも家族様以外の友人でも可能にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の交流は、あまり見られていません。会話ができない理解できない等、認知症も状況もあり難しいですが、レクリエーションを通して交流できる機会を設けながら支援しています。		

グループホーム せせらぎの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(クローバーユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護について難しいことが多くあり、退所後も家族様にはわからないことがあれば連絡できる体制は整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の生活様式を情報からくみ取り、希望やしたい事に寄り添って支援していますが、認知症で困難な時もあり、ご本人様ペースで見守りを行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できる限り生活歴やご家族様から情報をいただきご本人様の満足できるように支援を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を観察して些細な事も職員間で情報共有してカンファレンスやミーティングや申し送りを通して、入居者様の今の状態を把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が入居者様担当を持ちモニタリングやミーティング・カンファレンスを行い、また、生活の中でのいろいろな介護を提案して評価して、ご家族様にも意見を聞いてケアプランに反映できるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は経過記録や申し送りで情報共有して、入居者担当職員がモニタリング等で問題点や意見を記入してケアプランに繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会社の判断で、できるサービスや職員の判断で、できるサービスがあり、できる範囲内での支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今は行えていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の意向に沿ってかかりつけ医は継続していく。また、毎月訪問するクリニックの説明も行い、体調不良等を早期発見してDrと相談して健康状態を管理しています。		

グループホーム せせらぎの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(クローバーユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護があり、看護師には入居者様の状態の情報を共有して適切なアドバイスをいただいたり身体状況の相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様の入院時には、施設での情報を病院でも共有していただき、連絡を頻回に取りながら退院後の生活に不安を感じないように相談しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段の健康状態や体調を観察して、終末期の入居者様には早期に看取りの相談をご家族様・訪問診療・訪問看護・職員と情報共有しながら支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故対応は、実践にて経験を積んでいます。今は、職員各自のスキルを職員間で共有して対応できています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今後、年4回の災害・避難訓練を実施する予定です。職員には避難誘導や消火の手順を身につけるように訓練していきます。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様それぞれの性格や人となりを尊重して、職員個々の経験からなる接遇で対応している。今後は定期的に接遇勉強会を行います。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話せない入居者様や理解できない入居者様が多く、はい・いいえでの答えやすい質問を行い自己決定を促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や施設の規則もありますが、入居者様の各々のペースを大切にしたいと思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝・夕や入浴時には、職員主体にならずに、利用者様本人主体を尊重して支援しています。		

グループホーム せせらぎの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(クローバーユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が最大の楽しみなので、不快にならないように嫌いなものは出さないようにして食事されています。また、職員と一緒に食べることにより楽しむことができている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や飲水は入居者様の状態に合わせて工夫しながら摂取されています。また、食事や水分が摂れない利用者様はDrと相談しながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様によっては自分でできる入居者様は声掛けにて行っていただき、義歯の入居者様や介助の必要な入居者様は出来る限りご自分でいただき最低限のお手伝いをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入して、各入居者様の排泄状況を把握しています。立ち上がり等ADLも考慮しておむつを使用するか判断し、出来る限りトイレでの排泄を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄を観察して、排泄コントロールを行っています。食事形態や飲水量等を職員で話し合い最適な方法を共有しています。また、Drと相談して薬調整も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は入浴を行えている。入浴を面倒がる入居者様は、タイミングを図って楽しく入れるように工夫して支援を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様に合わせて、起床・就寝を行っています。また、昼夜逆転しないように、日中の臥床時間も決めて休息しています。また、夜眠れない入居者様にはDrと相談しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを理解して服薬しています。職員は入居者様の薬情を確認して、わからないことは薬剤師に確認して理解するように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の個々の能力を観察して、お盆拭きやモップ掛けをお願いしたり、カラオケやスポーツ鑑賞等のレクリエーション活動で支援しています。		

グループホーム せせらぎの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(クローバーユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉を見にドライブは行いました。また、ご家族様からの希望での外出はできています。施設のまわりの散歩は行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、入居者様がお金を持つ事はありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からの電話の希望はありませんが、ご家族様からの電話の取次ぎや手紙には対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間である食堂は、季節感がわかるように壁に季節の物を飾り気持ち良い空間を表現しています。トイレや浴室・玄関・居室は気持ち良く生活できるように環境を整えて、特に臭いには消臭剤や芳香剤を使用して居心地良く生活できるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が一人になれる空間は、居室しかありません。席順は大切な事案なため、性格や相性を考慮しながら決めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けの家具があります。入居時には馴染みのぬいぐるみや使い慣れた物を持参されています。また、自宅で使用していたリネンや服で気持ち良く過ごされています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの作りは、どこからでも見渡せるようになっていたため安全に見守りが出来る。また、通路やフロアには物の配置を考えて転倒防止やトイレに行く導線の安全に配慮しています。		